

大阪工業大学大学院 ディプロマ・ポリシーと学位論文審査項目・基準との関連

大学院 工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 応用化学コース

博士前期課程

(DPを達成するために特に関連度が高い項目に○)

ディプロマ・ポリシー		学位論文審査項目						設定理由	
		項目1)	項目2)	項目3)	項目4)	項目5)	項目6)		項目7)
研究科DP	(1) 人類が現在直面している持続不可能性をもたらす諸課題の解決に取り組み、専門職業人として社会の持続可能な発展を担うことができる。	○		○	○				・学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。 ・学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見」と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。 ・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。
	(2) 学士課程教育で得た成果をさらに高め、専攻における専門性と隣接する知識を総合して課題解決に取り組むことができる。				○	○			・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「専攻における専門性と隣接する知識との総合して課題解決に取り組む」が関連している。 ・学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「専攻における専門性と隣接する知識との総合して課題解決に取り組む」が関連している。
	(3) 研究活動を介して、課題内容を理解し解決策を導くことができ、倫理観をもって他者との協働による課題解決に取り組むことができ、説明することができる。					○		○	・学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「研究活動を介して、課題内容を理解し解決策を導くこと」が関連している。 ・学位論文審査項目7)と左記DP文いずれも双方に倫理の観点が盛り込まれており、関連している。
専攻DP	(A) 専攻が包含する幅広い技術的な背景を理解し、それぞれの専門性を深めながら複眼的な視点から課題解決に取り組み、社会の持続可能な発展に貢献できる。	○		○	○	○			・学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。 ・学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見」と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。 ・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「社会の持続可能な発展」が関連している。 ・学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「専攻が包含する幅広い技術的な背景を理解し、それぞれの専門性を深めながら複眼的な視点から課題解決に取り組む」が関連している。
	(B) 専門性に基づいた基本的実験および分析技術を身につけ、観察・解析することを通して結論を導き出すことができる。				○	○			・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「専門性に基づいた基本的実験および分析技術を身につけ」が関連している。 ・学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「観察・解析することを通して結論を導き出す」が関連している。
	(C) 研究の結果を的確に発信でき、他者との協働により課題解決にあたることができ、さらに倫理的に行動することができる。							○	・学位論文審査項目7)と左記DP文いずれも双方に倫理の観点が盛り込まれており、関連している。
コースDP	(I) 社会が抱える諸課題の中から化学が関わる課題を抽出し、他分野からの視点も取り入れて多面的に解析することで合理的な解決法を見出し、持続可能な社会の発展に貢献することができる。	○	○		○				・学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「社会が抱える諸課題の中から化学が関わる課題を抽出」と「持続可能な社会の発展に貢献する」が関連している。 ・学位論文審査項目2)の基準文中「適切な研究方法を実践している」と左記DP文中「多面的に解析することで合理的な解決法を見出し」が関連している。 ・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「持続可能な社会の発展に貢献する」が関連している。
	(II) 多様な化学現象を観察・分析および評価できる実験技術を身につけ、実験事実に基づいた論理的な思考で結論を導き出し、それを的確に表現・発信することができる。		○	○		○	○		・学位論文審査項目2)の基準文中「適切な研究方法を実践している」と左記DP全文が関連している。 ・学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見や新たな見解を示している」と左記DP文中「多様な化学現象を観察・分析および評価できる」が関連している。 ・学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「実験事実に基づいた論理的な思考で結論を導き出し」が関連している。 ・学位論文審査項目6)の基準文中「一貫した論理が展開され」と左記DP文中「実験事実に基づいた論理的な思考で結論を導き出し、それを的確に表現・発信する」が関連している。
	(III) 化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境負荷を未然に防ぐための方法を提案し、適切に対処することができる。							○	・学位論文審査項目7)と左記DP文いずれも双方に倫理の観点が盛り込まれており、関連している。
	(IV) 環境および生命工学分野との融合的な視点を保ち、グローバルな思考で協働して課題解決に取り組むことができる。				○			○	・学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「融合的な視点を保ち、グローバルな思考で協働して課題解決に取り組む」が関連している。 ・学位論文審査項目7)と左記DP文中「融合的な視点を保ち、グローバルな思考で」に倫理の多面的な観点が盛り込まれており、関連している。

学位論文審査項目・基準

審査項目	審査基準(満たすべき水準)
項目1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
項目2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
項目3) 独創性(新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
項目4) 有用性	得られた知見が関連する分野および社会に対して有用な情報となっていること。
項目5) 信頼性	既往の研究等が適切に評価され、それらを自己の観点から十分に分析していること。
項目6) 完成度	一貫した論理が展開され、学術論文としての体裁が整っていること。
項目7) 倫理性	研究が倫理的に管理されていること。

大学院 工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 応用化学コース

博士後期課程

《DPを達成するために特に関連度が高い項目に○》

ディプロマ・ポリシー		学位論文審査項目							設定理由
		項目1)	項目2)	項目3)	項目4)	項目5)	項目6)	項目7)	
研究科DP	(1) 専門分野における高度な専門性とそれを活用できる研究能力に基づき、課題発見およびその解決に向けた取り組みを実践できる。	○	○	○					<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「高度な専門性とそれを活用できる能力」が関連している。 学位論文審査項目2)の基準文中「目的達成のため、適切な研究方法の実践」と左記DP文中「高度な専門性とそれを活用できる能力」が関連している。 学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見」と左記DP文中「課題発見」が関連している。
	(2) 外国語を含めた論理的言語表現能力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力により、教育・研究内容を他者に伝え、他者の意見も理解し、リーダーシップを発揮することができる。								
専攻DP	(A) 専攻が包含する幅広い技術基盤と複眼的な視野をもった高度専門職業人として、持続可能な発展に関わる課題発見と解決を主導できる。	○		○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「持続可能な発展に関わる課題発見と解決」が関連している。 学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見」と左記DP文中「持続可能な発展に関わる課題発見と解決」が関連している。 学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「持続可能な発展に関わる課題発見と解決」が関連している。 学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「専攻が包含する幅広い技術基盤と複眼的な視野」が関連している。
	(B) 高度な専門性とそれを活用できる研究および実験能力に基づき、課題に対する問題設定および解決に向けた取り組みを自立的に実践できる。				○				<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「高度な専門性とそれを活用できる研究および実験能力」が関連している。
	(C) 論理的かつ多言語的なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力により、さまざまな情報の発信を円滑に行うことができ、それをもとにリーダーシップを発揮することができる。								
コースDP	(I) 化学関連分野の幅広い課題を発見し、それを解決するために多面的な視点で観察・分析・評価し、合理的な解決策を主導的に提案することができる。	○	○		○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目1)の基準文中「学術的・社会的意義を有する」と左記DP文中「化学関連分野の幅広い課題を発見し、それを解決する」が関連している。 学位論文審査項目2)の基準文中「適切な研究方法を実践している」と左記DP文中「多面的な視点で観察・分析・評価し、合理的な解決策を主導的に提案する」が関連している。 学位論文審査項目4)の基準全文と左記DP文中「合理的な解決策を主導的に提案する」が関連している。 学位論文審査項目5)の基準文中「自己の観点から十分に分析している」と左記DP文中「多面的な視点で観察・分析・評価し」が関連している。 学位論文審査項目6)の基準文中「一貫した論理が展開され」と左記DP文中「多面的な視点で観察・分析・評価し、合理的な解決策を主導的に提案する」が関連している。
	(II) 化学に関する高度な専門性と技能を身につけ、技術の進化や融合による新技術の創出に貢献できるとともに、持続可能な社会の実現に向けて自立的に行動することができる。		○	○	○				<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目2)の基準文中「適切な研究方法を実践」と左記DP文中「化学に関する高度な専門性と技能を身につけ」が関連している。 学位論文審査項目3)の基準文中「未知の事象・事物の発見」と左記DP文中「技術の進化や融合による新技術の創出に貢献」が関連している。 学位論文審査項目4)の基準文中「学術的・技術的発展に貢献」と左記DP文中「技術の進化や融合による新技術の創出に貢献」が関連している。
	(III) 課題解決にあたり、地球環境への負荷を考慮して的確に行動できる。							○	<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目7)と左記DP文いずれも双方に倫理の観点が盛り込まれており、関連している。
	(IV) 科学技術者としての倫理観を身につけ、修得した知識・思考あるいは情報を論理的かつ多言語で発信して、グローバルな課題の解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。							○	<ul style="list-style-type: none"> 学位論文審査項目7)と左記DP文中「科学技術者としての倫理観を身につけ」が関連している。

学位論文審査項目・基準（課程博士・論文博士共通）

審査項目	審査基準(満たすべき水準)
項目1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
項目2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
項目3) 独創性(新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
項目4) 有用性	得られた知見が関連する分野の学術的・技術的発展に貢献していること。
項目5) 信頼性	既往の研究等が適切に評価され、それらを自己の観点から十分に分析していること。
項目6) 完成度	一貫した論理が展開され、学術論文としての体裁が整っていること。
項目7) 倫理性	研究が倫理的に管理されていること。